

Go Next 100

持続可能な「まちなか脱炭素型モデル」の確立

GXを起点とした中心市街地活性化と地域経済循環の実装

宮崎市 × アジア航測株式会社

宮崎市の概要

温暖な気候と豊かな自然を有する、宮崎県の県都





▼青島







◀名物



面積

643.57 km²

人口

394,730 人

気候

南海気候区に属する温暖な地域

黒潮の影響で寒暖の差が比較的小さい

全国的に降水の多い地域

日照時間が長い特徴がある

アジア航測株式会社の概要

アジア航測株式会社
ASIA AIR SURVEY CO.,LTD.

アジア航測は空間情報を測り、コンサルティングを行う会社です

空間情報とは、地図やスマートフォン、カーナビでも利用している位置情報などを指し、社会生活に必要不可欠なものです。

測る	センシング	多様な「測る技術」で確かな空間情報を取得
診る	コンサルティング	取得した空間情報から分析・可視化
創る	モデリング	これまでの図面化だけでなく、デジタルツインなど新たな領域で構築

主要事業

防災

レジリエンス／流域治水

ハザードマップ、火山防災、河川・砂防、土砂災害対策、災害シミュレーション

社会基盤

インフラDX／超スマート社会

都市計画、道路、上下水道、橋梁、鉄道、港湾、行政支援システム

環境・森林

スマート林業

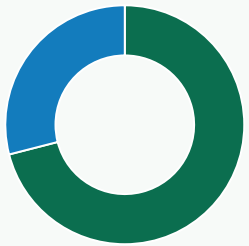
森林保全・林業、生態系保全、農業振興、CO2吸収量計測

再生可能エネルギー

カーボンニュートラル

洋上風力発電、再生可能エネルギー

顧客別売上高割合（2025年9月期）



公共事業
71.0%

民間事業
29.0%



公共事業

官公庁：国土交通省、農林水産省、環境省、復興庁、防衛省 等

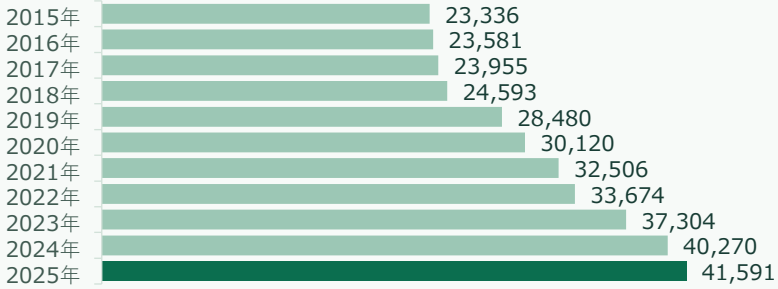
地方公共団体：都道府県、市町村、特別区（東京都区部）

民間事業

JR各社、私鉄各社、電力各社、通信事業者、ガス事業者、再生可能エネルギー事業者、NEXCO各社、ゼネコン各社、学校法人 等

売上高推移（百万円）

2014年以降、12年連続で増加
2025年は過去最高売上高（415億円）



独自性と技術力・最近の取り組み

アジア航測株式会社
ASIA AIR SURVEY CO.,LTD.

自然災害からの早期復旧・復興を支え、空間情報技術を新たな領域へ

独自性と技術力：自然災害からの早期復旧・復興



2023年7月10日～
九州北部豪雨による被害

2024年1月1日
令和6年能登半島地震による被害

2024年9月20日～
大雨による被害

独自性と技術力：保有機材（一部）



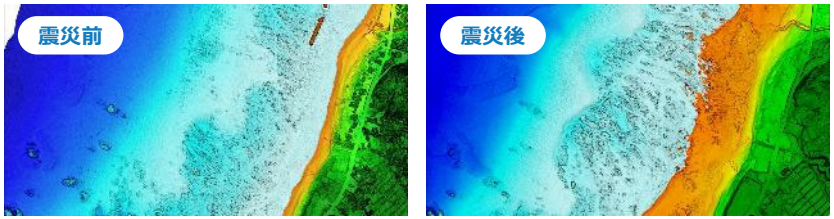
航空機　全7機

航空機	C90GTx JA81AJ（あおたか）、セスナ208 JA14AJ、セスナ208B JA12AJ
センサー	デジタル航空カメラ DMCⅢ、オブリークカメラ CityMapper-2、ALB（航空レーザ測深）HawkEye
地上・無人	UAV（ドローン）、車載型レーザ計測システム、ハンディ型ライダースキャナ、地上レーザー

最近の取り組み：「海の地図 PROJECT」への協力

これまで把握されていなかった海底地形を航空レーザ測量技術で計測、日本沿岸のデータを整備するプロジェクト（日本水路協会と日本財団が実施）

水難事故の防止、津波・高潮などの防災、藻場や漁礁など生態系の把握保全、環境教育などに役立てます



能登半島地震では、地形変化が明瞭に判読されました

新たな岩礁の出現（門前黒島周辺）　能登半島地震緊急調査報告（日本財団の発表資料のうち当社作成図面から引用）

最近の取り組み：プロジェクト「PLATEAU」

国土交通省の都市空間をデジタル3Dで作成するプロジェクト

地表をデジタル空間にもう一つ作る「デジタルツイン」

3Dデータとすることで、様々なシミュレーションにも活用できます



広島デジタルツインプロジェクトより引用

01

地方都市が抱える課題とGXの必要性

1. 宮崎市が目指す都市像

脱炭素を「目的」ではなく、次の100年の都市価値をつくる「手段」として捉える

市制100周年



令和6年４月１日

都市と地域経済を再設計

挑戦し、成長する
開かれたまち
～OPENCITYMIYAZAKI～



挑戦し、成長するまち

世界・みんな・未来に開く

1. 時代の変化を見据えて成長し、世界に開かれているまち
2. 多様性を認め、互いに支え合う、みんなに開かれているまち
3. 明日への希望にあふれ、未来に開かれているまち

1-1 宮崎市の現状と課題

市全体

人口減少

2020年

約40万人

↓

2050年（見込み）

35万人未満

生産年齢人口の減少

15～64歳

地域経済・生活サービスを支える世代

まちなか

中心市街地の空洞化

賑わいが広がらない



都市のスポンジ化

空き家・低未利用地

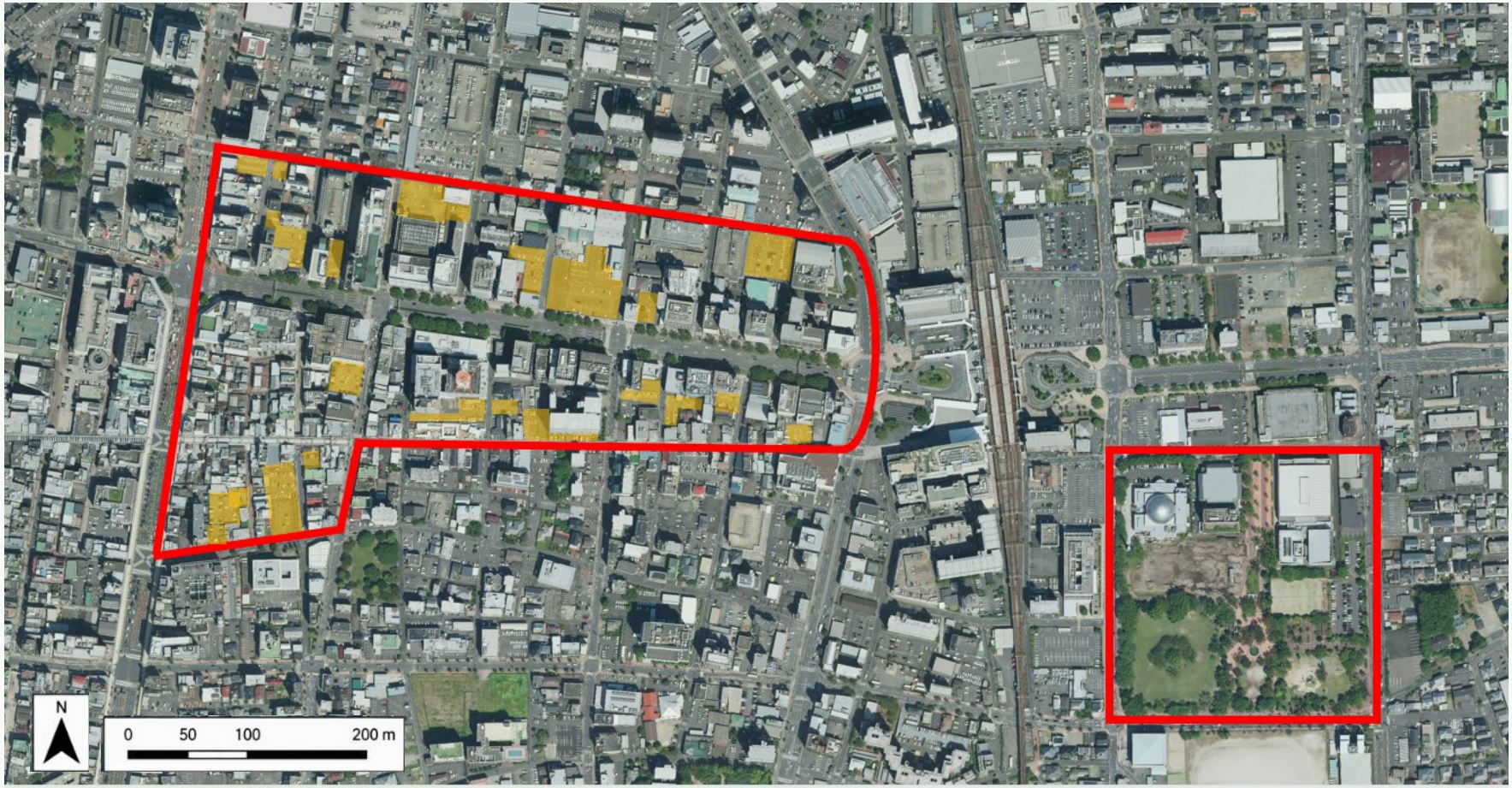


老朽建築物の増加

建替え・更新が課題



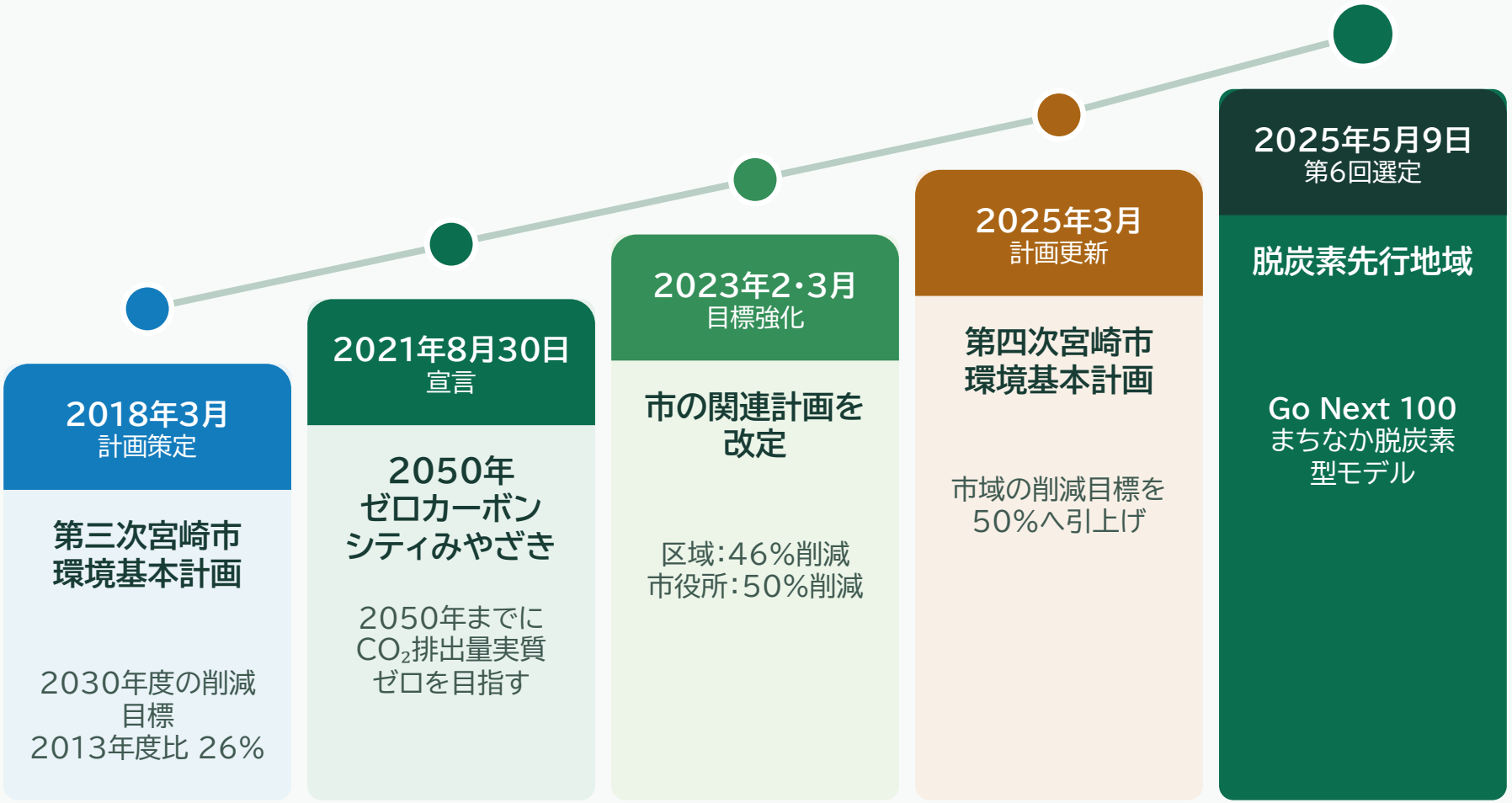
1-1 宮崎市の現状と課題



：低未利用地・駐車場用地など

1-2 脱炭素先行地域選定までの宮崎市の歩み

計画の策定・目標の引上げを重ね、脱炭素を市の政策として段階的に強化



1-3 まちなか施策

将来像・歩行空間・民間投資をGXで一体化

まちなか将来ビジョン

交流・活動する開かれたまち

民間投資 ／ ウォーカブル ／ 公民連携 ／ 持続可能な都市環境

まちなかウォーカブル推進

居心地が良く、歩きたくなる中心市街地

1. **歩行空間**
   高千穂通り・広島通り等／ほこみち
2. **環境整備**
   電線類地中化・駐輪環境
3. **回遊性**
   ぐるっぴー（グリーンスローモビリティ）

まちなか投資倍増プロジェクト

投資を呼び込む3本の矢

- **容積率の緩和**
- **斜線制限の緩和**
- **固定資産税等の低減**

評価：オープンスペース／敷地集約・回遊・景観
環境負荷低減（ZEB Ready等）

1-4 脱炭素先行地域事業との施策間連携

不足していた「建物更新支援」と「街に行きたくなる理由」を脱炭素施策で補完

既存のまちづくり施策

都市政策

- ウォーカブル空間
- 容積率等の規制緩和
- 民間共創拠点MOC
- 中心市街地への投資誘導
- スポーツ・観光振興

＋

脱炭素先行地域（R7.05.09選定）

GX施策

- ZEB診断・整備
- LED・高効率空調
- 太陽光発電設備・ソーラーカーポート整備
- GX教育・産学官連携
- エコアクション・公共交通

施策間連携で「同時解決」

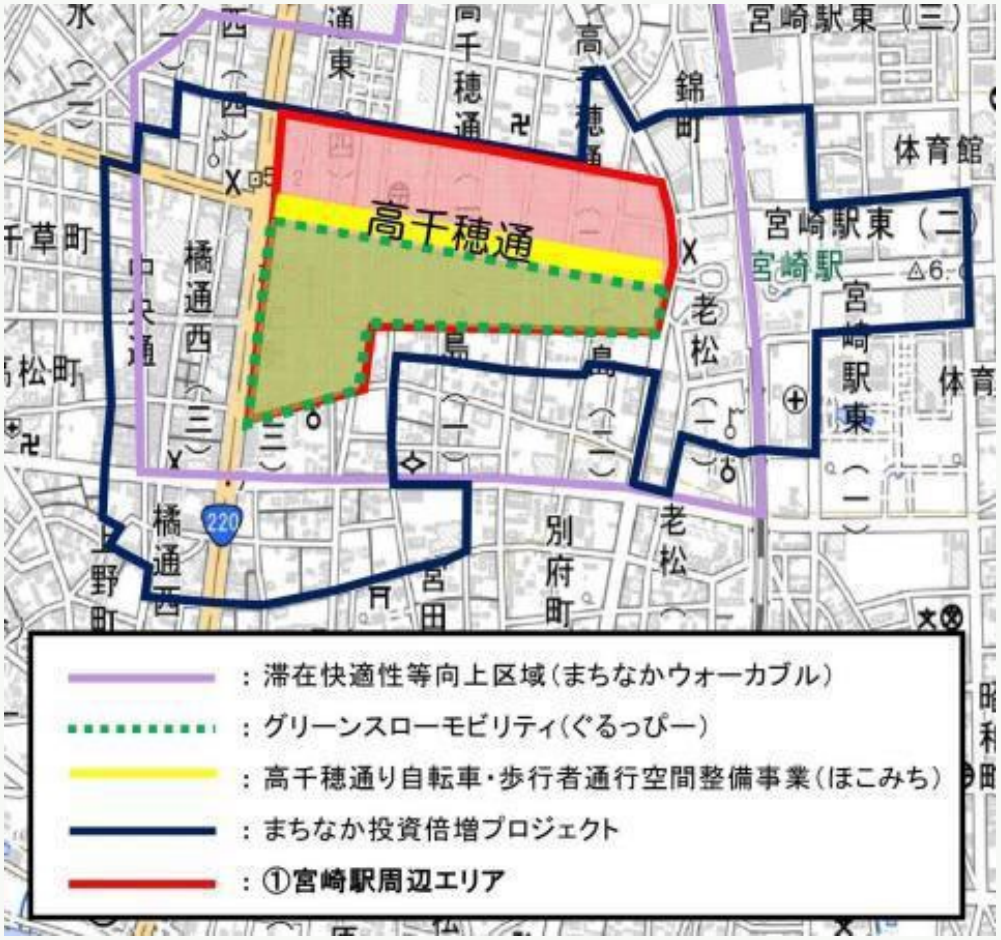
まちづくり課題の解決
建物更新・街の魅力づくりを加速

脱炭素施策の優先度が向上
後回しにせず、同時に前進

1-5 宮崎市施策の対象エリア

まちなか施策と脱炭素先行地域の重点エリアを重ね、宮崎駅周辺から施策連携を実装

宮崎駅周辺エリア





高千穂通り



02

環境省脱炭素先行地域づくり事業
宮崎モデル

2. 脱炭素先行地域の先進性・モデル性

1 既存の関連施策との連携

- 容積率緩和と連動
- 地域課題の同時解決
- にぎわいと環境対策の両立
- 都市機能の充実
- 行政主導の推進体制
- 脱炭素企業の誘致

2 産学官連携エリアによる人材育成

- 人材育成拠点の形成
- 他自治体へ展開できる仕組み
- 新たな再エネ導入の検討
- 展示・研修機能の充実
- 次世代の脱炭素人材育成
- 進学、就職への接続
- 理系進路選択支援の発展

3 スポーツ連動による脱炭素アクション

- プロスポーツ団体との協働
- 脱炭素型スポーツイベントの開催
- ファン層への環境啓発
- カーボンオフセットの仕組み構築
- 地域経済と持続的な行動変容の両立

既存施策・既存施設を活用し、制度と人材の基盤を地域に残すことで、他都市への横展開につなげる

2-1 先行地域の対象エリア



宮崎駅

宮崎県庁

宮崎市役所

宮崎空港

※位置は概略を示します

市中心部の対象エリア

① 宮崎駅周辺エリア



ZEB化・民間投資
地域経済の循環・賑わい創出

② 産学官連携エリア



宮崎科学技術館
人材育成・新事業創出

2-1 先行地域の対象エリア

③ 生目の杜運動公園

総面積 35.4ha

ソーラーカーポートによる
再エネ供給



施設全体の俯瞰図



④ 清武総合運動公園

総面積 42.3ha

ソーラーカーポートによる
再エネ供給



施設全体の俯瞰図



03

まちなかGXの実装プロジェクト

3. 先行地域づくりの事業推進体制

市と民間事業者が連携し、事業別WGで実行

宮崎市脱炭素先行地域づくりコンソーシアム

正会員：共同提案12団体　賛助会員：公募事業者
オブザーバー：国・地方公共団体等

連携

宮崎市
推進本部会議
（庁内組織）

事業別WG　事務局：宮崎市・アジア航測

補助事業WG

再エネ ／ 省エネ
ZEB

その他のWG

需要家合意形成・電力供給
エコアクション・スポーツ・産学官連携
公共施設・公共交通

3-1 ZEB新築・既存改修

新築と既存建築物で異なるアプローチを取り、まちなかの建物更新を加速

新築ZEB

ZEB Ready相当以上を「新しい都市更新の標準」へ

対象	マンション・オフィス・ホテル 各1棟を想定
実現手段	ZEB導入支援 ＋ 容積率最大40%割増し
ねらい	建替えの動機をつくり、民間投資を誘導

既存施設のZEB改修

診断から改修まで支援し「既存ストックの性能向上」へ

対象	一定規模16棟はZEB診断・改修
実現手段	ZEB診断 → 改修・省エネ設備導入
ねらい	光熱費削減と建物価値・快適性の向上

新築は「投資を呼び込む」／既存改修は「今ある建物を高性能化する」

制度・補助・診断・設計施工をWGでつなぎ、建物所有者の実装まで一体支援

3-2 ソーラーカーポート

運動公園の駐車場上部空間を活用し、
再エネ供給・来場者利便性・防災機能を同時に向上

生目の杜運動公園

ソーラーカーポート

計画容量	1,820 kW
年間発電量	3,097,147 kWh/年

駐車場上部を発電設備として活用
雨除け・日除けによる利便性向上
災害時のレジリエンス強化

清武総合運動公園

ソーラーカーポート

計画容量	1,400 kW
年間発電量	2,076,591 kWh/年

駐車場上部を発電設備として活用
雨除け・日除けによる利便性向上
災害時のレジリエンス強化

一部を公園内で自家消費し、余剰電力を宮崎駅周辺・産学官連携エリアへ供給

3-3 省エネ機器導入

高効率空調・LEDの導入支援で、設備導入・更新を促進

民間施設

省エネ設備導入：
空調　95件
LED　95件

・光熱費削減
・就労環境の向上



住宅

マンション等：
空調　203件
LED　203件

・光熱費削減
・室内環境改善



公共施設

科学技術館の空調、LEDの更新

ZEBReady施設の開所

・快適な観覧環境
・実物を使ったGX教育
・公共施設の率先行動



3-4 産学官連携エリアでの取り組み

科学・研究・共創・子ども支援の拠点をつなぎ、「学びと実装の現場」へ



宮崎科学技術館

体験型学習で全年代へ

年間 約15万人 が来館

エネルギー展示の更新・
講座・企業展示



宮崎大学

研究成果を教育・地域実装へ

GX研究センター
研究・産学地域連携機構
サテライトキャンパス



（仮称）みやざきこどもセンター

子どもと家庭の総合支援拠点

2029（令和11）年度開所

予定機能：児童相談所／
こども家庭センター
教育相談センター／
地域子育て支援センター
ファミリー・サポート・センター

学ぶ ➤ 試す ➤ 仕事にする ➤ 地域へ広げる

3-5 PLATEAU × 脱炭素

再エネの候補地と発電効果を3Dで可視化し、都市更新の判断を支援

PLATEAUとは

国土交通省の3D都市モデル整備・活用・オープンデータ化プロジェクト
建物の形状・用途などの都市情報を立体的に把握・分析

1　都市を3Dで把握



建物形状・方位
周辺建物の影を確認

2　発電ポテンシャル算定



屋根・壁面の日射量
予測発電量を推計

3　適地を選定



災害リスク・景観条件を重ね
導入候補を絞り込み

課題：場所・効果が不明瞭
合意形成に時間がかかる

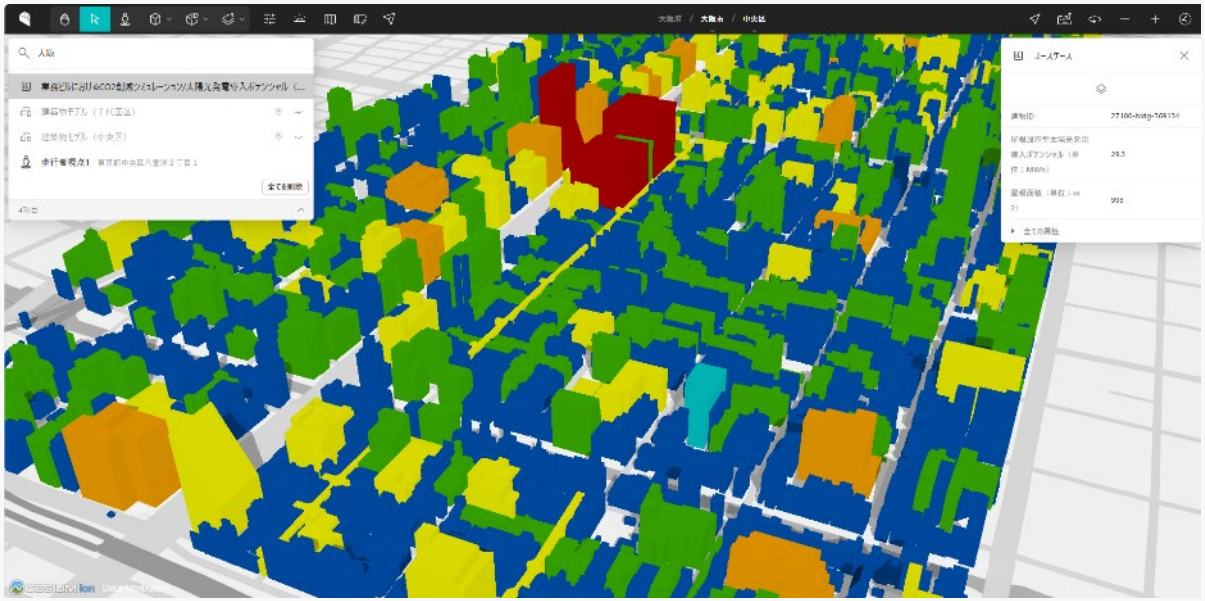
建物単位で発電効果と制約を可視化
候補選定・効果比較・合意形成の共通資料に

宮崎市での活用イメージ
屋根・壁面・窓面の導入可能性を検討し、ZEB改修・太陽光導入の優先順位付けへ

3-5 PLATEAU × 脱炭素

PLATEAUで発電量等を予測し、施策につなげる

3D表示（PLATEAU VIEW イメージ）（発電量）



建物・面ごとの成果項目

建物ID・面IDで紐付け
屋根面と外壁面を区別して管理

評価指標	単位
設置可能面積	m²
予測設備容量	kW
年間予測発電量	kWh/年

① PLATEAUで3D把握
建物ID・面IDで屋根/外壁を管理

② 発電量等を予測
設置可能面積・設備容量・発電量

③ 施策につなげる
ZEB改修・太陽光導入の優先順位付け

※PLATEAU VIEW：大阪市

04

スポーツランドみやざきから始まる行動変容

4. プロスポーツとの連携

熱狂・観光・交通をGXの入り口にする

スポーツで集客



春季キャンプ

ソフトバンクホークス
オリックスバッファローズ

幅広いファンへ

会場でGXに参加



再エネ・脱プラ

ソーラーカーポート
公共交通・EV

体験を行動に

まちなかへ回遊



宮崎駅を移動HUBに

まちなか行動に特典
観光・商店街・交通と連携

地域消費・賑わいへ

※読売ジャイアンツ・JLPGA等との連携も検討

スポーツの熱狂を、日常の環境行動と都市回遊につなぐ

4-1 スポーツの熱狂を環境行動に

専用クエストで、参加のイメージを具体化



40代夫婦・福岡県在住

妻はホークスファン。夫婦での春季キャンプ観戦が恒例に。

本事業の専用クエスト例



マイバッグを
使おう



マイボトルを
使おう



公共交通機関を
利用しよう



シェアサイクルを
利用しよう

クエストに参加 → ポイント獲得 → 貯めたポイントで脱炭素イベントに参加

※エコアクションやポイント獲得機会には、予定・未実装の内容を含みます。

4-1 スポーツの熱狂を環境行動に

行動変容プラットフォーム「C」アプリ紹介

マイカーボンクレジット
獲得アプリ

日常の行動が、価値になる。

「C」は、行動を変えるきっかけを届け、学びや参加を通じて、社会や地球への貢献をSCとして可視化する行動変容プラットフォームです。



※画面は開発中のものです
（実際の仕様とは異なる場合があります）

01 クエストで参加
気になるクエストを探して参加。



02 QRで参加確認
お店やイベントでQRを読み取り、参加をチェックイン。



03 記事で学ぶ
記事を読んで、知識を深め、行動のヒントを得る。



04 クイズに挑戦
クイズで理解度を確認し、より深く学ぶ。



05 アンケートで共有
あなたの考えや行動を共有し、より良い未来をつくる。



06 現地でチェックイン
対象スポットに到着したら、位置情報を認証して完了



07 行動を可視化
獲得したSCをいつでも確認。



毎日の行動をクエスト化
楽しく続けられるクエストで、行動のきっかけを提供します。

学びと参加をひとつの体験に
記事・クイズ・アンケートで、学びながら参加できます。

SCで貢献を可視化
行動の成果をSCとして貯めて、貢献をわかりやすく表示します。

地域・企業・生活者をつなぐ
企業や自治体の取り組みを通じて、社会全体のつながりを生み出します。

小さな行動が未来を変える
一人ひとりの行動が、持続可能な未来への大きな力になります。

05

最後に

5. 宮崎モデルが示すもの

地域固有の資源を置き換えつつ、既存施策をGXで強化する「仕組み」を他地域へ展開

地域に合わせて置換

宮崎市の資源

まちなか投資倍増
プロジェクト・駅周辺更新
宮崎大学・科学技術館・MOC
スポーツキャンプ・運動公園

展開先の既存施策・施設
集客資源に置き換える

横展開する3つの仕組み

既存施策にGXを重ねる

規制緩和・投資誘導・まちづくりと
ZEB・省エネ・再エネ支援を連携

産学官・地域企業で実装

行政・大学・企業・金融・施工者のWG
技術と合意形成を一体化

地域に自走基盤を残す

GX教育・技術蓄積・行動変容
交付金終了後も自走へ

段階的に横展開

市内他地域

公共施設・住宅地
地域拠点

↓

県内市町村

地域資源に合わせて
再構成

↓

他の地方都市

既存制度を活かす
まちなかGXモデル

横展開の核：地域課題を起点に、既存施策・資源へGXを組み込む方法

こんな街を目指して...





ご清聴ありがとうございました